

授業改善推進プラン <社 会 科>

(社 会) 科における令和3年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・「社会的事象に対する主体的に学習に取り組む態度」については、地図や視覚的資料、デジタル教材を活用することにより、生徒の授業内容への関心を高めることに取り組んだ。第2学年の平均正答率は区の平均を超えることができているが、第3学年は下回っている。
- ・「社会的な思考・判断・表現」については、白地図や様々な資料を活用し、諸地域の特色や産業の特色を多角的・多面的に捉える作業や、各時代や歴史的事象のおおまかな流れを捉え、自分の言葉でまとめる作業を授業内で増やした。第2学年では区の平均正答率を超えたが、第3学年は下回っている。
- ・「資料活用の知識・技能」については、地理においては地図帳や視覚的資料・デジタル教材を活用し、地図を見ながら重要事項の意味と場所を学習する授業を展開したことや、歴史的資料とデジタル教材とさらに地図帳などの地理的資料をあわせて併用して歴史的事象のおおまかな流れをまとめることにより、「資料活用の知識・技能」を高めることに取り組んだ。第2学年の平均正答率は区の平均を超えることができているが、第3学年は下回っている。

(社 会) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析

- 社会科全体の平均正答率は、第1学年では目標値より1.0ポイント下回っており、第2学年は0.4ポイント下回っている。そして、第3学年では0.6ポイント下回るという結果が出ている。
- 地理的分野において、第1学年は「世界の中の国土」、「日本国憲法」では目標を上回っているが、「日本の食料生産」、「日本の工業生産」、では目標を下回っている。第2学年は「日本の姿」では目標を上回っているが、「世界の姿」、「世界各地の人々の生活と環境」、「世界の諸地域」では目標値を下回っている。第3学年のすべての内容別結果が目標値を下回っている。
- 歴史的分野において、第1学年は「天皇中心の国づくり」、「天下統一と江戸幕府」では目標を下回っているが、「世界の中の日本」では目標より上回っている。第2学年は「飛鳥時代～平安時代」では目標を下回っているが、「縄文時代～古墳時代」、「中世の日本」では目標を上回っている。第3学年では「江戸時代」で目標より下回っているが、「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」「明治時代」では目標値を上回っている。

りを理解させることで、歴史のおおまかな流れを捉えるための授業を実践する。

・公民：日本国憲法の条文を確認しながら、生徒たちに身近な事柄との関連を理解させることで、

「主体的に学習に取り組む態度」を高める。また、既習事項の復習を授業内でくり返し
行

うことで、基礎・基本の徹底を図る。